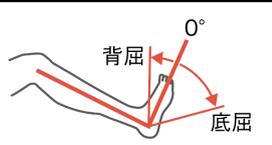
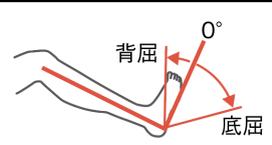


正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2023年12月15日）

■第2版 第1刷（2022年3月1日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
2章					
37	上から4行目	…滑膜表層細胞層とその深層の表層下滑膜層から構成される	…滑膜表層細胞層と、 線維膜側に位置する表層下 滑膜層から構成される		23/12/15
4章					
91	下から15行目	口腔の後方に位置し、上方は鼻腔、下方は食道および 気道 へと連続する…	口腔の後方に位置し、上方は鼻腔、下方は食道および 気管 へと連続する…		22/05/13
92	図4-6	気道	気管		22/05/13
92	図4-7C	気道	気管		22/05/13
92	下から2行目	また、 喉頭蓋が反転して気道を閉塞する 。	また、 舌根部を軟口蓋に押しつけることで、口腔と咽頭が遮断される(舌口蓋閉鎖) 。		22/05/13
93	上から1行目	…押しつけられると 口腔と咽頭が遮断される 。このとき舌骨は前上方に移動するが、それと同時に喉頭が挙上されて、喉頭蓋が後下方に 倒れ込んで声門(気道)が閉じる 。	…押しつけられることにより、 食塊を咽頭から食道へ押し出す力が生じる 。このとき舌骨は前上方に移動するが、それと同時に喉頭が挙上されて、喉頭蓋が後下方に 倒れ込み(喉頭閉鎖) 、さらには 声門が閉じる(声門閉鎖) 。		22/05/13
6章					
135	下から12行目	線維性 関節 に相当し、…	線維性 連結 に相当し、…		23/12/15
139	図6-31説明文	脛骨と腓骨による線維性 関節 である…	脛骨と腓骨による線維性 連結 である…		23/12/15
140	下から7行目	距骨と踵骨における 相対する3つの関節面をみると、後踵骨関節面と中・前距骨関節面の間には踵骨溝と距骨溝が存在する 。	距骨の下面をみると、 後踵骨関節面と中・前踵骨関節面の間には距骨溝が存在する 。また踵骨の上面をみると、 後距骨関節面と中・前距骨関節面の間には踵骨溝が存在する 。		23/12/15
巻末付録					
212	「足関節・足部」の背屈、底屈の図(中央の右端)			0°の赤線を足底面の位置まで移動	22/03/25
索引					
214~ 222		189、190、191、192、193、194、195、196ページの索引用語は、それぞれ192、193、194、195、196、197、198、199ページに修正。	197、198、199、200、201ページの索引用語は、それぞれ199、200、201、202、203ページに修正。 (ただし、197ページの索引用語のうち、「会陰筋」「肛門挙筋」「骨盤の筋」「坐骨尾骨筋」「恥骨直腸筋」「恥骨尾骨筋」「腸骨尾骨筋」「尾骨筋」は200ページに修正)	3ページずつずれて おりました 2ページずつずれて おりました	23/12/15
※小社の本書詳細HP(以下URL)にて索引の修正版PDFを掲載しております。 https://www.yodosha.co.jp/yodobook/book/9784758102582/					